

昨年5月、金沢学院大に「珍景」が現れた。午前9時の開館前から図書館に行列ができ、開館と同時に自習スペースが満席になったのだ。「こんな初めてだ」と教職員は目を丸くした。パソコンを囲んだ学生たちは、活発に意見を交わしながら、発表用の資料作りに励んでいる。

❁「修羅場」

一昨年に導入した文学部の1年生向け授業「フューチャースキルズ・プロジェクト(FSP)」は、企業がテーマを課し、学生チームが解決策を提案する形で進められる。1次提案では、企業の担当者が学生に容赦なく質問、注目を浴びせる。「そう言う根拠は何?」「棒読みの発表じゃ何も伝わってこない」「君には熱意が足りないんだよ」ほんの数カ月前まで高校生だった学生は、たちまち言葉に詰まる。「まあ、修羅場ですよ」。FSP導入の旗振り役を務めた前川浩子准教授は

おっとり学生に「荒療治」

金沢学院大①スピード改革

そう言うが、事前に発表資料を見て修正を指示したりはしない。コテンパンにやられた悔しさをバネに、学生は「最終提案こそは」と奮奮し、図書館を埋めたのだ。

「うちの大学、特に文学部の学生は真面目で素直なタイプが多い。もつちよつとアグレッシブなところがあってもいいのに、と思つてくわい」

前川准教授が評するよう、前川が「お嬢さま学校」の金沢女子大だったせいもあってか、金沢学院大の学生は総じておとなしい。いきおい就活でもおっとり構えて遅れを取りがちだ。FSPで毎回学生に書かせるコメント用紙には「意見を毎回必ず出すのがつらい」との声もあり、脱落

者もないわけではない。

❁「1番に」

それでも前川准教授は「半期の授業で学生のめざましい

成長を実感する」と強調する。「これまで『1番になろう』だなんて考えたことはなかった。初めて、1番になれないで悔しいと思った」。企業担当者が最優秀案を選ぶ最終提案の後、そう書いてきた学生

運動会の徒競走で手をつなぎ、みんなそろってゴールする。そんな時代に育った若者に、「荒療治」は確かにスイッチを入れたわけだ。新年度からは、FSPを全学で実施することが決まっている。

金沢学院大は今、組織改編の真っ最中である。今年度は文学部を改組、新年度はスポーツ健康学部を人間健康学部に変更、管理栄養

学生で満席となった図書館
昨5月、金沢学院大



2年で全学部を刷新

士養成の学科を新設する。美術化学部は芸術学部を改称して中身を改め、経営情報学部も学科再編する。わずか2年で全学部を刷新する、全国でも珍しいスピード改革だ。その裏には強い危機感がある。1995年、共学化して金沢学院大に改称したのと同じに設けた経営情報学部は、当初高い人気で、金沢経済大(現・金沢星稜大)のお株を奪ったかに見えた。

だがその後、他大が就活支援などで特色を打ち出す中、金沢学院大は出遅れ、ライバルの後塵を拝した。遅ればせながら改革に着手し、右肩下がりがだった志願者数がこの数年、ようやく増えてきたというのが現状である。

大学間競争は間違いなく、今後ますます激しくなる。学生に「変われ」と迫るだけではない、大学自身も変わらねば、明日はない。金沢学院大が取り組む矢継ぎ早の改革は、そんな時代状況を克明に映し出している。